

詣下社、暫留社頭、帷脫御衣裳、更著清服、即駕腰輿入社。

〔江家次第十五〕大嘗會

卯日○中略、戊刻御戀輿○中略、出自建禮門、入自昭訓門、於東廊壇上改駕腰輿○中略、承平○朱、入自宣政

門、不御腰輿、依皇后○藤原皇子、同輿也。

〔禁秘御抄下〕一内裏燒亡

主上御直衣生御袴也、乘御腰輿、奉昇無定様、人々下人雜人隨參會、相撲節前日、有内裏燒亡、相撲人

昇之、尤有便歟、凡様在時儀也。

〔公卿補任字多〕仁和五年○寬平元年

關白太政大臣、從一位藤基經四十五、十一月十九日、聽腰輿。

寬平二年

左大臣、從一位源融六十九、七月廿二日、聽腰輿。

〔日本紀略字多〕寬平二年七月廿一日、聽太政大臣○藤原基經乘腰輿。

〔古今著聞集三〕政道忠臣、寬治八年十月廿四日、亥時計に、内裏燒亡有けり○中略、事急になりて、腰輿す

で、に南殿によせられたるほどに○下略。

〔百練抄高倉〕治承元年四月十四日、主上駕腰輿、行幸院御所、武士供奉前後。

〔増鏡老十〕波、六年○弘安正月六日、日吉社の訴訟、勅裁なしとて、御輿はみやこへいらせ給○中略、御門

字、はいそぎ對屋にいでさせ給て、腰輿にて近衛殿へ行幸なる。

〔實躬卿記〕永仁三年閏二月廿日、今夕爲御方、違行幸持明院○中略、後聞及深更、乘御腰輿、臨幸御堂方。

此間雨下之間、立蓋供御雨衣。

〔太平記十七〕義貞北國落事。